

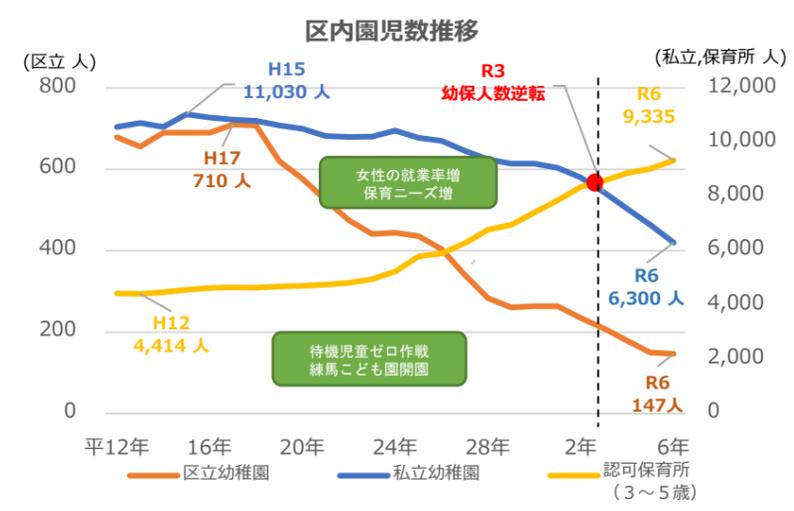
区立幼稚園の現状について

1 区立幼稚園の経緯

昭和50年	<ul style="list-style-type: none"> 区内初の区立園が開園（北大泉） ※ 幼稚園の空白地域解消、2年保育開始
昭和60年～平成元年	<ul style="list-style-type: none"> 光が丘地区に4園（あかね、むらさき、わかば、さくら）が順次開園 ※ 光が丘団地の開発に伴う需要増に対応、私立園の設置が見込めない
平成26年	<ul style="list-style-type: none"> 光が丘地区の2園を閉園（あかね・わかば） ※ 保育ニーズの高まり園児減少のため適正配置を実施。跡地を保育所として活用 北大泉幼稚園、光が丘むらさき幼稚園、光が丘さくら幼稚園の3園を運営

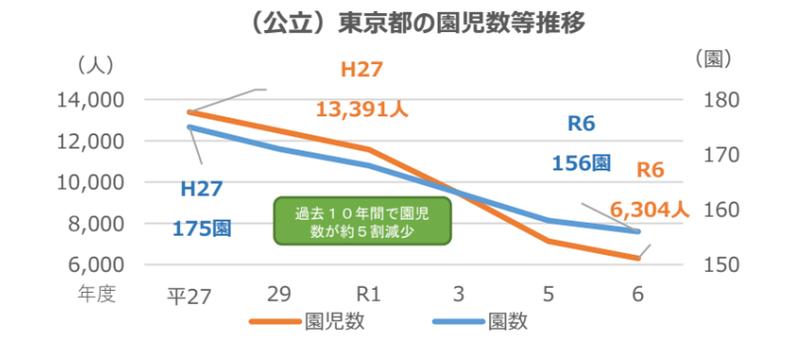
2 幼稚園児数について

● 練馬区内の園児数推移



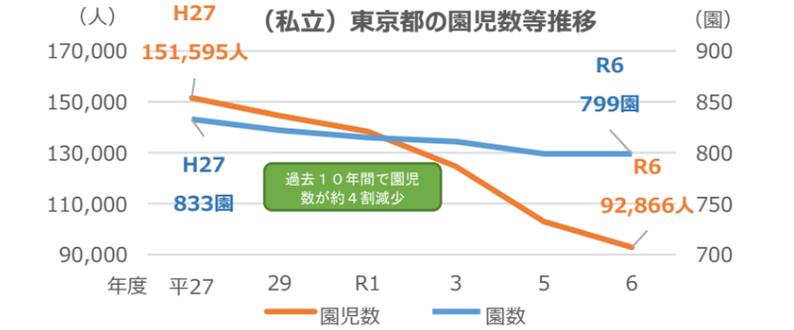
- **幼稚園の園児数は区立・私立ともに近年大きく減少。**
(要因) 女性の就業率増に伴う保育園利用の需要増、急速な少子化に伴う子どもの数の減
- 3～5歳の幼児のうち、**幼稚園に通園している割合は約4割**、**認可保育所に通園している割合は約6割。**

● 東京都の公立幼稚園の園児数等推移



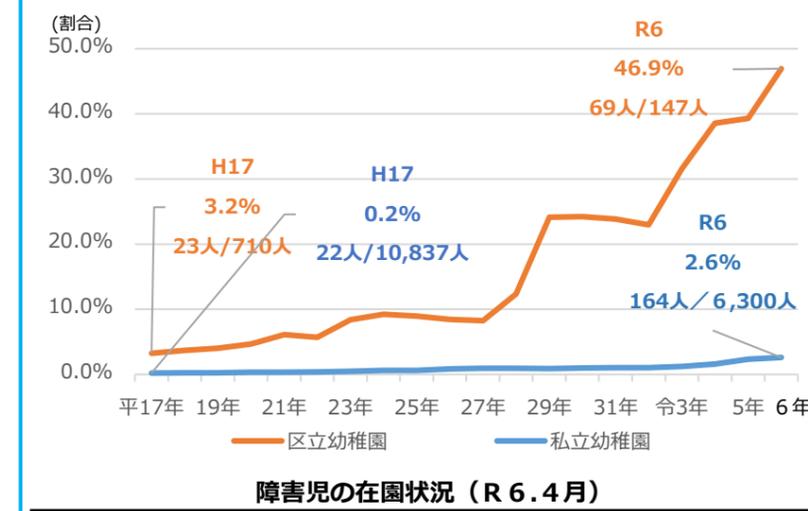
- 東京都全体でも公立幼稚園の園児数・園数ともに近年大きく**減少**。
- 過去10年間で園児数は**約5割減少**、園数は**約1割減少**。
- 今後も東京都の公立幼稚園の園児数および園数は**減少する見込み**。

● 東京都の私立幼稚園の園児数等推移



- 東京都全体でも私立幼稚園の園児数・園数ともに近年大きく**減少**。
- 過去10年間で園児数は**約4割減少**、園数は**約1割減少**。
- 今後も東京都の私立幼稚園の園児数および園数は**減少する見込み**。

3 障害児の受入れについて



- 私立、区立ともに障害児数は増加。
- **区立の障害児の割合は高い(46.9%)**
重度、医ケア児、私立からの転園者や入園できなかった園児などを受入れ。
- 区立幼稚園への登園範囲は、半径1キロ以内が障害児全体の約**3割**、半径1キロ超えが障害児全体の約**7割**である。
- 障害児が在園していない地域がある。

(参考) 令和6年度各区立園の実績 (5月1日時点)

園名	定員	園児数	うち障害児	外国籍児童	充員率	障害児割合
北大泉	156人	44人	25人	0人	28.2%	56.8%
むらさき	168人	58人	22人	8人	34.5%	37.9%
さくら	168人	45人	22人	3人	26.8%	48.9%
計	492人	147人	69人	11人	29.9%	46.9%

4 3年保育、預かり保育、給食（保護者ニーズ）

